

死者の声が人を守る 法医学の真実とは

この春、話題を呼んだテレビドラマ「ヴォイス〜命なき者の声〜」をはじめ、推理ドラマ等で取り上げられることが多い法医学教室。今回は岩瀬博太郎教授に、千葉大学の法医学についてお伺いしました。

——まず、法医学とはどのような学問なのでしょう？

法医学とは、医学の観点から法的な諸問題に関わる学問といえます。法とは、国民の権利を守るために作られるものですから、法医学とは言い換えるなら、国民の権利を守るための医学と言ってもよいでしょう。

明らかかな病死とは思えないような死に方をされることを変死とか異常死と呼びますが、そうした遺体を解剖や薬物検査、DNA検査などを通して、極力死因を正しく判断するのも法医学の仕事の一つです。死因や身元推定などをきちんと判断することは、**死者やご遺族の権利を守ったり、冤罪を防ぐことにもつながります**。また、死因を特定することで、将来の犯罪や事故を未然に防ぐことも大きな役割の一つです。例えば、20年前に20人以上の方が亡くなった給湯器

による一酸化炭素中毒事故では、最初の犠牲者は解剖されず「心不全」とされていきました。もし、この方が解剖され、一酸化炭素中毒だと判明していれば、被害者の数は激減したはずですが、このように、法医学で行う解剖などの業務は、**死者を診てはいますが、それを通して、生きていく人を守ることを目的に行っている**のです。

よく、ドラマの世界では、行政解剖を行う監察医や私たち法医学者が警察と一緒に捜査や現場検証に参加したりしますが、あれはフィクションです（笑）。海外の監察医は捜査に参加するケースもあるので、それをモデルにしているのでしょうか。
——日本および千葉県の法医学は、海外と比べてどのような位置付けにあるのですか？
欧米諸国で変死体が見つかった場

合、約50%から100%を解剖して死因を追求します。千葉県を見ると、昨年は約七、〇〇〇体の変死体がありました。その中で司法解剖が行われたのは二〇〇体、**わずか3%の解剖率**です。監察医務院がある東京でも、行政解剖と司法解剖を合わせて20%前後の解剖率ですので、低いと言わざるを得ないですね。この法医学教室では毎週四〜五体の司法解剖を行っています。それが、それ以上は人的にもスペース的にも規模が足りない状況です。

日本の医学は非常に発達していて、病気になる前から最先端の医療が受けられるのですが、一方で病死以外の死因の解明については、非常に疎かにされているというのが現状です。

——先生と千葉大学の関わりは？

私は生まれが千葉県で父が千葉大出身ですから、ずっと身近な存在と感じていました。あと、千葉ロッテマリーンズが移転してきた時からのファンなんです。今はなかなか観戦にも行かれません。昔は外野でヤジを飛ばしたりして（笑）、熱く応援していました。そして平成15年に千葉大に来て……これも縁ですね。

——二〇〇六年に千葉大学の法医学教室が日本で初めて導入したCT機器は、変死体を解剖前に診断できると大きな話題になりました。

CT機器の導入を様々なメディアで取り上げていただいたことで、日本の司法解剖率の低さや、解剖報酬の低さなどが明るみになり、予算が出るようになったことが大きな変化といえるでしょうね。

実は、私が千葉大に赴任した当時は、全国で行われている司法解剖にはわずかな謝礼のみで必要経費さえ払われず、いわば無料サービスで行っている状態でした。千葉大学の法医学教室もまた、設備や機材はもちろん、感染症を防ぐための手袋などを揃えるのも

難しい時さえありました。これではいけない、と思い、当時の医学部長の福田先生に相談したところ、すぐに取り上げ改善へと動いていただいたのです。その一環として、CT機器導入もスムーズに行うことができ、今に至っています。

——先生の行動が制度の改善につながり、日本の法医学を救ったんですね。

そこまでではないでしょうが、法医学の置かれている現状の打破に少しは役立てたかな、と思っています。これも**風通しが良くフットワークが良い千葉大**だからこそできたことでしょう。

また、導入後は解剖の現場にもたくさんさんのメリットがありました。これまでは、遺体の内部の状態がわからないまま、手探りでメスを入れていくというものでした。CTを導入し、事前に画像情報を得た上で解剖ができるようになったことで、非常に効率的になりました。

千葉大での画像診断の活用を機に、群馬大や近畿大など、他大でもCT機器を導入するところが出ています。

——解剖の前は、どのようなことを考えるのですか？

「この方はどうして亡くなってしまったんだろう、その理由を探らない」という気持ち、その一点のみですね。ただ、僕は今でも解剖室で遺体と二人きりになることが怖いんですよ。本音を言えば、解剖だって本当ならあまりしたくはないですが、なぜ解剖をするかと言えば、そこに死因のわからない遺体があり、それを解明しなければならぬという使命感があるからです。

内科や外科の医師が「病気を治さな」と思うのと同じことなのだと思います。

——解剖以外の研究はどのようなことをされているのですか？また、現在の法医学教室の規模は？

CTによる事前診断のさらなる可能性を探っているほか、法菌という菌型による身元診断、溺死の診断やDNA鑑定などの研究を行っています。ま



千葉大学医学研究院教授(法医学) 岩瀬博太郎
いわせひろたろう



実際に使われているCT機器



法医学教室のメンバー

た、千葉県の変死体の死因にどんなものがあるのか、ケースレポートをまとめることもあります。

現在の法医学教室は、修士一名、博士三名、講師や助手などの医師が三名と技術職員です。法医学を専攻した場合の就職口としては、大学に残って解剖医になることが多いのですが、正直に言えばポストが少ないですね。本来は**国を挙げて死因解明のためのシステム作りをするべき**なのだと思いますが……なかなかもどかしいですね。

——最後に、学生へのメッセージを聞かせてください。

千葉大は、千葉県随一の研究機関であり、行政や地域社会との連携が取りやすく、さまざまなデータが集まってくるので研究がしやすい場所だと感じています。

だからこそ、学生の皆さんは**色々なことを経験して、視野を広げてもらいたい**です。異なる立場を知り、異なる視野を持つことは将来にきつと役立つことだと思います。優秀な人材が集まる千葉大だからこそ、中に閉じこもらずに外に羽ばたいてほしいですね。

個性あふれる教員

理学部教授 伊藤 谷生

空前の規模で取り組む
中部日本地殻構造探査」



内陸地震を起こす活断層の密集域である中部日本は、約3億年かけて形成された日本列島の背骨に位置しており、複雑な地殻構造を有しています。このためプレート境界に近い太平洋沿岸約1500万年前に形成された日本海沿岸域を対象にして構築されている従来の活断層論では対処できない様々な問題を持っているのです。解く鍵は、深度3~40kmまでの地殻構造全体を明らかにすることにあります。

そこで伊藤教授をはじめ地球科学コースの教員や院生・学生諸君は他大学と共同して人工地震を用いた反射法地震探査に今取り組んでいます。その規模は、150kmに及ぶ測線長、3,000箇所での地震計設置、12地点での強力ダイナマイト発破、多数の地点におけるパイプレータ(写真左)4台(各17トン)駆使です。

このような空前の実験ができるのは千葉大学が反射法地震探査の教育・研究を推進できる国内唯一の大学だからです。学生諸君によれば、全体を指揮している伊藤教授(写真右)は現場では到任したばかりで、生きた仕事に取り組む作業員そのものといった様子。伊藤教授の面目躍如たるところなのでしょう。

医学部教授 田邊 政裕



「小児外科医から医学教育へ」

小児外科からこの部門に1999年4月に異動しました。小児外科は15歳未満の小児を手術で治療する部門です。重篤な先天奇形のある新生児を緊急手術によって救命し、正常児と変わらない人生が送れるようにするのが、小児外科医の得意分野です。小児外科医は小児を診る繊細さと優しさ、外科医の実行力を兼ね備えています。

総合医療教育研修センター(センター)は医師、コメディカルを対象とする教育、研修を担当する医学教育専任のポジションです。わが国は世界でもトップクラスの長寿国です。これを支えているのが良くトレーニングされた質の高い医師と看護師、薬剤師などのコメディカルです。

しかし、今、それが医療崩壊と言われるように危機的な状況に陥っています。このような困難な状況でも、医療に責任を持って、それを確実に遂行できる、タフでまじめな医師、医療者を育成します。センターはこの教育に繊細さと優しさの実行力をもってあたっています。

亥鼻キャンパス

〒260-8670(医) 〒260-8672(看)
〒260-8675(薬)
千葉市中央区亥鼻1-8-1

西千葉キャンパス

〒263-8522
千葉市稲毛区弥生町1-33

看護学部教授 山本 利江



「職人氣質の看護教員」

山本先生の専門である基礎看護学は、看護の基礎となる考え方や看護基本技術の教育・研究をテーマとしています。先生の授業は、近代看護の祖とされるフロレンス・ナイチンゲールの教えを基盤とした本質的なものの見方・考え方で貫かれ、多くの学生を惹きつけています。

また先生は、助手時代から数多くの看護技術のビデオ作成を手掛けてきました。先生の、カメラ機材を扱う様子や、講座の小さなスタジオにこもって黙々と編集作業を行う様子は、まさに職人という感じです。SCS回線を使った遠隔双方向授業を、千葉大学でいち早く企画・実施したのも先生でした。このように先生は、マルチメディアを取り入れた効果的な看護学教育を追究し続けています。

先生の、看護の本質の追究と映像に対するこだわりを一言で言い表すとすれば、「職人氣質」に尽きるでしょう。職人というと頑固者のイメージがありますが、いつも周りは笑い声であふれ、皆からは親分と慕われている先生です。

薬学部教授 山本 友子



「ちひさきものはみなうつくし?」

「薬学」は生命や健康について研究する総合科学で、その研究成果をもって人類の健康・福祉に貢献することを目的としています。山本教授は「目に見えぬほどの小さな生き物によって引き起こされるいろいろな病気(感染症)とどう闘うか」をテーマに基礎生命科学研究を行い、その成果を感染症の治療と予防に役立てようとしています。

インフルエンザをはじめ結核、コレラ、エイズ、マラリア等、感染症といっても様々。21世紀の今日でも世界で年間1,700万人の人が感染症で命を落としており、感染症研究は今も最前線の分野です。山本教授は千葉大学薬学部の出身ですが、他大学の医学部での10年以上の教育研究経験があります。2回のアメリカ留学、4歳の息子さんを育てながらの研究生活も今は懐かしいとか。

現在は長年にわたる基礎生命科学研究と細菌感染症研究を融合させて、細菌感染のメカニズムを分子のレベルで解明しようとしています。これらの基礎研究の成果は、病気を防ぐ安全なワクチン開発へ応用されようとしています。

んあります!」

はデザイン学科があります。しかも工学部の中に! ですか?では、なんで芸術学部ではないのでしょうか。簡単です。千葉大学のデザインは「工業デザイン」の学科で、以前は工業意匠学科でした。つまり工場のデザインを柱に教育・研究するために設置されたのです。今では、工業・トランスポート・シミュレーションの4つのデザインプログラムがあります。

学科には、もう一つ特徴があります。千葉大学に留学生がいます。その一割以上の100人くらいです。これもデザイン学科の自慢です。

デザインやグローバルアジアデザインスクールなどに、多国籍で多彩なデザイン学科を覗いてみてく

園芸学部准教授 丸尾 達



「松戸キャンパスの元気印」

園芸学部には、冬でも半袖のポロシャツで飛び回っている先生方が何人かおられますが、中でも丸尾先生は、大きな声と半袖のポロシャツがトレードマークという元気一杯の先生です。

専門は、蔬菜園芸学(野菜の生理生態と栽培技術の研究を通じて、より効率的で安全な野菜の生産手法を開発する分野)で、なかでも養液栽培や施設園芸、植物工場の分野では、世界的にも有名な研究者です。実験室での実験というより、圃場での栽培試験中心の教育・研究活動ですが、ハウスなどの大型施設から、栽培装置、測定機器類まで試験設備の大半が手作りです。従って、

温室施工から水道工事、制御機器の製作まで、なんでも対応するため、園芸の「丸尾工務店」としても有名です。

趣味も広く、登山から山スキー、マラソン、サイクリング、水泳までアウトドア全般はお手のものです。学内では、ISO活動、ワンゲル顧問、組合活動などにも対応されていて、いつも学内外を飛び回っています。



松戸キャンパス

〒271-8510
松戸市松戸648

文学部教授 鈴木 伸枝



「『民』と協働する研究をめざして」

今日の日本の大学を取り巻く世の中では、「産学官連携」ということがいわれています。けれども、こうしたスローガンが忘れてあるものがあります。それは「民」です。

鈴木先生が「個性あふれる教員」だといえるのは、先生が文化人類学者として異なる「文化」を知る上で、人とかわりながらフィールド調査を行うだけでなく、2009年度から文部科学省の科学研究助成を受け、先生のこれまでの在日フィリピン人研究を下支えしてくれた非政府団体(NGO)の人々と協働しながら、こうした民族集団がおかれた立場を彼らと協働し調査研究する、

つまり「民」の声を「民」とともに聞こうと試みているからです。

文学部は、人間探求を目指す学部です。鈴木先生はこの文学部で、「人」を中心とした課題を、学問分野や学者という領域や資格の枠を超えた立場から検討し、新たに生まれてきている社会問題に取り組もうとしています。

法経学部教授 広井 良典



「好きなことを幅広い視点で探求」

広井先生は社会保障、福祉・医療、環境等の分野に関する公共政策から、ケア、死生観、時間等に関する哲学的探究まで、幅広い研究や活動を進めています。

厚生省に10年務めた後、1996年に千葉大に赴任され、2001年にはマサチューセッツ工科大学(MIT)で客員研究員を務めました。2004年から2009年3月まで、21世紀COEプログラムという大規模な研究プロジェクトのリーダーを務めたほか、社会的にも幅広く活躍され、最近では文部科学省の脳科学委員会の委員や、政府の教育再生懇談会の委員、朝日新聞の書評委員等も務めています。

国際的にも、国際協力機構(JICA)による中国農村部での社会保障制度整備に関するプロジェクトのアドバイザー等を務めてきました。数多くの著書があり、『持続可能な福祉社会』『定常型社会』といった本を出されています。「好きなことを分野の枠にとらわれず自由に探求していくことが創造性につながる」というモットーで、ゼミや講義に熱心にまた楽しく取り組んでいます。

教育学部教授 明石 要一

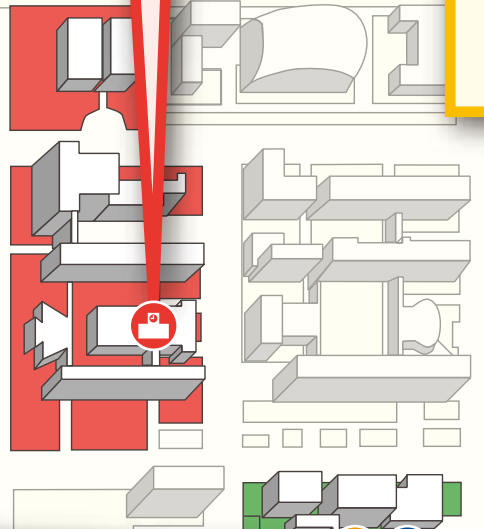
「教育学部で長嶋学の創造を目指す」



なぜ大学のゼミで長嶋学を始めたのですか。「長嶋さん(長嶋茂雄巨人軍終身名誉監督)の大ファンはいませんが、嫌いな人もいません。多くの人から親しまれ愛されています。こうした長嶋さんが目指す教員像となりうるのか。長嶋さんは教員の鑑になるのか。もしそうなら、長嶋さんはどのようにして成長してきたのかを探ろうとしたのです。」

今、研究はどこまで進んでいるのですか。「かれこれもう4年ほど続けています。調査によれば長嶋さんが小学校の教員になれば、子どもたちは遊びが上手で元気になる、とみえています。ただし算数、国語の成績が上がるとはみていません。」また、「病気になられた後に行った調査では、長嶋さんのがんばりに元気を貰った、という声が多いのです。」

今、教員養成が岐路に立っています。時代を超えて通用する教員像の形成が求められています。長嶋学を通して日本の教育を担う明るく元気で好奇心のあふれた教員像を探していくつもりです。



工学部教授 渡邊 誠



「デザイン」

千葉大学には皆さんはご存知ですか?その答えは「ノー」を育成する産業製品のための「デザイン」なので工学部にも「デザイン」環境・メディアデザイン。実はデザインは今年900人近い

がデザイン学科(大学院も含む)に在籍しています。一方で、共生環境デザイン、サービスプロダクトなど多彩なプログラムが運営されています。このように「デザイン」はちょっとしたスモールワールドです。



学生が参加する

千葉ロッテマリーンズ/ジェフユナイテッド市原・千葉との連携活動

ユナイテッド・スポーツ・チバの活動体験記

教育学部小学校教員養成課程
4年 服部 由佳

私たちはジェフユナイテッド市原・千葉との連携協力を通して、企画を実行に移したり、実際に子どもたちを指導する現場を経験したりする機会を得ています。元日本代表のオシム監督講演会の開催、Jリーグの試合の運営ボランティア、ジュニアチームの指導のアシスタント、サッカーおとどけ隊のキャンプ・イベントのお手伝いなどです。特に、子どもたちと接する場面では、子どもが生きる力を伸ばし、子どもをじっくりと見守る。指導を目の当たりにしました。また、現在は、ジェフの方との定期ミーティングから生まれた、大学内での「子どもたちのためのキャンプ」をつくることに奮闘中です。知識があっても行動に移すことは想像以上に大変でした。現実と向き

千葉ロッテマリーンズでの業務体験記

教育学部スポーツ科学課程
4年 豊嶋 淳宏

私は、昨年の夏に社会体育実習の一環として、株式会社千葉ロッテマリーンズで5日間業務を体験しました。担当は、千葉マリンスタージウムで千葉ロッテマリンスターズの試合中、MCC（マリンスターカスタマーセンター）というお客様と直に接する窓口での業務でした。来場されたお客様の会員カードに来場ポイント（ポイント）を付加したり、キャンペーン活動をお手伝いしたりするということなのです。

皆さんは、プロ野球というスポーツビジネスの現状をご存知でしょうか。一見華やかに見えますが、様々な逆風のなかでの経営が



マリンスターカスタマーセンターにて

続いていきます。ミーティングにも参加させていただいたのですが、毎日のようにイベントを実施したりしながらより多くのお客様に来場してもらうため、試行錯誤を繰り返しています。今回の実習を通して感じたことは「感動の裏側には、多くの人の努力がある」ということです。皆さんにも、今後は是非このような想いを持って試合を観戦してもらいたいです。



オシム監督（当時）を囲んで

合うとき、正解も見えないし、答えはたった一つではありません。でもその過程で、地域の方々と関り、仲間と意見をぶつけ合い、ボランティアやまちづくりを考えることは、座学や独りでは体験できないおもしろさを味わいました。このようなことをジェフとの活動を通し、これからも学び続けたいです。

〈8月24日〉実習一日目

- 13:30～ 興行ミーティング
 - 各部署が、当日のタイムスケジュールや新しく始める企画などを報告。
- 14:00～ 三塁側MCC（マリンスターカスタマーセンター）の準備
 - MCC内のシステムの起動・確認や、マリンスターカードにポイントを付加する方法やその際に渡す景品についての説明を受ける。また、ガラボン抽選会が行われるのでその準備。
- 16:15～ 球場が開場し業務開始
 - 三塁側MCCにてガラボン抽選会の業務を担当。お客様からマリンスターカードを受け取り、抽選に必要なポイントが貯まっていればガラボンをまわしてもらう。はずれの場合は昨年配布されたピンバッジを渡し、あたりの場合は鐘を鳴らして選手のサイン入りユニフォームを渡す。7回の裏終了でガラボン抽選会は終わるので、その後は来場者のマリンスターカードに来場ポイントを付加する業務を行う。

ある日のサッカーおとどけ隊

- 07:40 おとどけ隊号で蘇我を出発
- 08:00 市原市の小学校に到着
- 08:30 スポーツ体験教室（3・4年生）
スポーツ体験教室（1・2年生）
スポーツ体験教室（5・6年生）
学校の先生も目からうろこのプログラムと指導法。
- 12:30 給食
ジェフのコーチと子どもたちと一緒に給食をいただきます。
- 13:00 先生方と意見交換
- 14:00 蘇我の事務所に帰社

創立60周年記念OB・OG 千葉大学を語る

平山 喬恵 氏

(株)アクティブブレインズ代表取締役

プロフィール

1983年	千葉大学法経学部卒業
1983年	(株)テスタプロジェクト
1985年	アメリカ留学
1986年	(株)村井ニット
1998年	(有)アクティブブレインズ設立
2004年	(株)アクティブブレインズに組織変更（現在に至る）

大学時代、ゼミでは社会学を専攻しフィールドサーベイという考え方を学びました。その授業は大変新鮮で、今でもはっきりと憶えています。いろいろな角度から物事を分析し考えをまとめていくプロセスは、今でもこそビジネスの現場で日常的に使っていますが、当時の私にとってはかなり刺激的でした。

卒論では、当時問題となっていた「暴走族と社会的現象」というテーマを取り上げました。暴走族に参加しているメンバーのアイデンティ



幕張WBGオフィスにて

ティーという観点から現象を捉え、問題解決への糸口を探求していくという研究です。現役の暴走族のヒアリング調査が中心で、担当教官の先生には心配していただいた記憶があります。

部活では、音楽系サークルに身をおき、日々バンド活動（ベース担当）と、練習後のコミュニケーションに力を注いでいました。大学祭で行われる野外ステージ「オン・ザ・ロック」に出場することがメンバーの目標でしたが、千葉大の音楽系サークルはどのバンドもレベルが高く、出場することは叶いませんでした。そのことだけは、今でも心残りです。サークルの先輩であった夫は、私が1年生の時、工業意匠科の4年生でした。現在でも、夫がドラムス、私がベース、それに当時のメンバーが加わり、おやじバンドとして年に数回ステージに立たせていただいています。

現在、千葉大でベンチャービジネス論と起業論の講師をしておりますが、微力ながら後輩育成のために協力できたらうれしい限りです。



大学2年生 図書館前にて

CHIBADAI People

生協ブックセンターのみなさん



生協ブックセンターでは、専門書を始めとしてほぼ全ての書籍を10%割引で販売しています。店舗に置いてないものもほとんど取り寄せられるので、遠慮なくカウンターで訊いて下さい。また書籍の販売だけではなく、TOEICなど資格試験の受け付けや、公務員や公認会計士など資格専門学校の申込み受け付けも行っています。

また「読書マラソン」といって、カードに感想を書きながら継続的に本を読んで、読書力をつけようという企画を実施しています。書いたカードは店頭の本と一緒に並びますので、何を读んだらいいかわからないといった時は、ブックセンターの読書マラソンコーナーに来てみてください。いろいろな本に学生の皆様の感想コメントが付いて並んでいます。きっと今の自分にぴったりな本が見つかると思いますよ！